

を行う必要があります。個々 めに個々に応じた働きかけ 能力や発達段階の向上のた 私たち職員は彼らの潜在的 る小児の発達段階は様々で、 ています。現在入所してい 小児(18歳未満)が入所し

に応じた働きかけをするた

社会福祉法人 聖隷福祉事業団 医療保護施設・地域医療支援病院

聖隷三方原病院 総合病院

2023年9月1日発行

道

生活支援課課長兼副所長

田 結 実 知育活動

「みのり」を通して

哲 也

者 木

http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/

に興味を持っているのか しいのか、どのようなこと ながら、何ができて何が難 者に対する行動や表情を見 られる表出、職員や他利用 す。実際に関わった時に見 しく理解する必要がありま めには、その児について正

じた関わりや遊びを通して 子どもがその発達段階に応 びは欠かせないものです。 れていることだと思います。 いこと)、一般的にも理解さ 前の全小児期の成長が著し 成長することは(特に就学 達段階に応じた関わりや遊 長していきます。また、発 人関係やその中で起こる経 て最も重要な時期です。対 現在、当施設には17名の 様々な体験を通して成 児期は成長発達にお

す。

す。 ゾーン再編成で日中小児同 団での活動を実施していま 活動「みのり」で小児の集 士が過ごすリビングを設定 るかゾーンでは、昨年度の 活動を実施し、過ごす環境 ました。おおぞら2号館は についても検討し整えてき 午後の時間には、知育

やりとりに気付くことがで と他児の関わり、児と児の 集まることや大人(職員) そうすることで児は、 ること、子ども同士の距離 なく自由に動くことができ と、児の動きを妨げること グ内に視線を向けやすいこ ごす環境では、児がリビン 本として設定しています。 は1m以内であることを基 小児同士が昼間を共に渦

どのように感じているの よって児の成長が見られて 個々に応じた知育活動に いることを今回お話ししま 理解を深めていきます

|知育活動| と称して小児の 6年前から当施設では

児にとっては平行遊びに繋 供の仕方は異なりますが、 個の発達に応じて活動の提 個別活動を行っています。 みんなが同じ素材を使った れるようにします。 のやりとりの内容やそこで 順番に自分にスポットが当 の相手の表情を間近で見ら たることを体験すると同時 に、他児と大人(職員)と

> 環境の中で知育活動を積み 考えられます。このような

ね、児の成長発達に繋げ

児が触れることで、 ます。児と児がふれあえる 存在を意識することができ きます。 また近づいてきた 他児の

動ではチェアに座り、活動 的は、 設ける、この3つです。こ 得する、3. 性を体感し、 を築く、2. とりを見聞きし、 職員は安全を守りながら児 ります。そして集団の中で います。活動前半の集団活 グラムを組み立て実施して の目的のもと、活動のプロ 度は体験、経験する機会を かわり、大人と他児のやり 必要があると考えています。 ことを意識し設定していく の成長に繋がる環境である 環境の中では、危険が予測 に意識が持てるように関わ される場面もありますが、 知育活動「みのり」の目 1. 子ども同士のか 人生の中で一 物の性質や特 素朴概念を獲 対人関係 後半は

とで、 ていたバチに手を伸ばしま りをよく見聞きするように り視線や視界が変わったこ りました。普段の横になっ 対人関係について変化があ とだと捉えています。実際 発達で遊びを通して対人関 この複数の小児が同じ空間 の興味から始まる行動だと で相手が行っていることへ 子ども同士のやりとりの中 持って見せるものとは違い ました。これは大人が手に チは元の児の手に戻ってい ました。少しするとまたバ はそのバチを隣の児へ渡し した。バチを持っていた児 いて、そのうちに児が持っ にいた児はそれをよく見て て太鼓を叩いていると、隣 なりました。児がバチを使っ ている姿勢からチェアに座 係を築く過程では大切なこ がるように設定しています。 に活動を継続している中で、 をする平行遊びは、 同じ素材を使った遊び 職員と他児のやりと 小児の



和田 利重子 あすかの

紹介したいと思います。 おおぞらには就学前や おおでしたいと思います。 学童期に入所し、成人を 学童期に入所し、成人を 学童期に入所し、成人を 学童期に入所し、成人を おおぎ着き、それぞれの活 あっら 1 年が経ち、生活も から 1 年が経ち、生活も から 1 年が経ち、生活 の活 さん でいます。 昨年度から、あ する 着き、それぞれの活 を がらりには就学前や おおぞらには就学前や

口と眼球を左右に動かし、が聞こえるとキョロキョが



ノンタンの「あっぷくいる様子がありました。リズムを感じて楽しんでや短い言葉の繰り返しのを短の活動では擬音の響き音を感じています。昨年音を感じています。昨年

かしっぽ」のようなひとかしゃわー たぬきさんかぶっ このしっぽんがぶっ このしっぽんがぶっ このしっぽんがいいました。「あ 色々な抑揚が楽しめるよました。擬音だけでなく、が緩んで笑顔で聞いていと、口角が上がり、表情 で集中して楽しんで聞けら聞いているな、最後ましをまとまりと感じなが <u>(</u>" ているなと感じました。 よりも長い文章の繰り返 うになってきたな、以前 フレーズが繰り返される まとまりのリズムのある け 139 フレーズを聞いて、目を ました。「みんなならん くぷぷぷう」を語りか ノンタンの「あわぷく 1. 2. 3] という

と鳴らすと、スッと目をリーの上部を「コンコン」ますよ。」とカラコロツました。「Aさん、はじめ変化を感じる活動を行い変化を感じる活動を行い

個落とし、音が重なるよ玉を間隔をあけながらる が緩み、にこやかな表情 繰り返し鳴らすと、口元 がすると目をキョロキョ うにして鳴らすと、目に で聞いていました。 いているなと感じました。 を大きくさせていました。 る音がすると、ハッと目 「コトン」とビー玉が落ち くようでした。 白さや集中度が増してい かになったりすると、 れたり、音が増えて賑や まとまりの音が繰り返さ て聞いていました。ひと 力が入り、グッと集中し 口とさせて聞いています。 ロ・・」と流れるような音 連の音の流れをよく聞 向 けてカラコロ けていま カラコ ピー 面

ます。 職員の動きをよく見ていす。Bさんはリビングでもうな笑顔を返してくれまると、Bさんははじけるよると、Bさん、おはようございます。」と朝、声を掛けいます。」と朝、声を掛け

が始まるとパッと明るいけをしました。語りかけ「あかずきん」の語りか

るのか、フッと手が下

を少し低い声で読むと、の後、オオカミのセリフ表情で聞いています。そ いていました。「それは笑い出しそうな表情で聞 それは それは でも、目を大きくして、たオオカミの会話の部分 じっと聞いていました。 大きくなるように読むと、 オー!」とだんだん声が をたべるためだー! きんとおばあさんに化け ○するためさ」とあかず の?」「それはおまえを○ してそんなにおおきい 上げて、目を大きくして 腕の動きも止まり、眉を を大きく動かし、 「おばあさんの○○はどう けていくところでは あさんが交互に会話 きはじ おまえ ウ

表情が緩んでいました。 声色の変化や声の大きさいな音色が出る楽器で音いな音色が出る楽器で音の響きを感じる活動を行いました。 シャラララ・・」 ときれいな音色が出る楽器で音の変化や声の大きさん。



き、その動きで音が鳴るて、その後に少し手が動んだん右手が挙がってきで目の前で鳴らすと、だ 増え、・ 鳴らしていました。しば テ 指 手を伸ばしてきたり、手の後、楽器の音がすると と、目を大きくさせてい らくスティックをさわり、 ることがありました。そ たとき、左側臥位の姿勢 はじめて、1ヶ月ほど経っ ツリーチャイムの活動を せて音を聞いていました。 を動かしていることが へったのか、 イックをさわって音を 真剣 な 表情を緩ま 表情でス

感じていました。
動きで音を出す楽しさを動きで音が鳴っているこかに思われました。自分のとに気がつき、積極的なとに気がつき、積極的なとに気がったいるこのをした。自分ののではなりました。自分ののではなりました。

放

課後等デイサービス

うになり、 認めあえる温かい環境で、 切さ実感しています。活 のびのびと心も体も大き 利用者の小さな変化や成 在を感じられる環境の大 や職員がおり、 中リビングで過ごせるよ 多くありました。 策で部屋で過ごすことも 昨年はコロナの感染対 や日常生活を通して、 なっていってもらいた の芽を大切に、それを 周囲に利用者 身近に 再び日 存



デイサービス 一石原明美平日の放課後等

> す。 揺れに注意、安全運転でクミラーで確認しながら度、みんなの表情をバッ

をします。 動や訓練、 の様子を確認します。落 とりしながら一人ひとり 屋へ向かいます。 ち着いたところで個別活 しかったかな」などやり 眠そうな児など様々です。 ちょっとお疲れ気味の児、 まずは一息。元気な児、 停めて、 つマットの上に降りて、 「学校で何したのかな」「楽 中央棟の 放課後デイの部 水分補給など 入り口に車を ー 人 ず

のの光や音、他児や職員は両手をついて座り、外て自由に動きます。時には、転がって、背這いしは、転がってはいなAさん

ばして触ったり

ます。お気こんりしたりしたりしたりしたりしたりしたいでいたり、楽しの様子を見たり

なと見ているとピン同士なと見ているとピン同士なと見ているとにこになったりと工夫に音を鳴らしたりと工夫に音を鳴らしたりと工夫に音を鳴らしたり、ピンとボウルで太鼓のようにます。スズランテープをます。スズランテープをようにはボウルを頭で見ているとピン同士なと見ているとピン同士

ます。

 力強く右手を動かし、゛ポ徐々に気持ちが乗ってきて

側臥位姿勢で一休みしたり、おやつを食べたりするり、おやつを食べたりすると元気になります。元気になったところでさあ活動しなったところでさあ活動しなったところでさあ活動しなったところでさあ活動しずって前にシロホンを置くと、まずは様子を見ています。職員が音を鳴らすと少す。職員が音を鳴らすとつけずつ右手を動かし、ポン・ポン、と小さく音を鳴います。職員が音を鳴らするします。日元に力を入れらします。日元がきりっとして

へいに。 大切に今日もお迎えに向多様な姿勢をとの思いをイは、のんびり、楽しく、学校終わりの放課後デ



· 号館 中津川

をふまえた看護が提供でき という視点を持ち、 利用者の日々の生活を守る おぞら1号館へ異動してき 6月より、F4病棟からお

たらと思っています。 宜しくお願い致します。 した中津川諒太郎です。 個別性

> うぞよろしくお願いします。 て行きたいと思います。ど を支援できるように頑張っ 護を大切し、利用者の生活 別性に合わせた関わりや看 動となりました、 6月より04病棟より 利用者1人1人の個 大石聡美





ざっくり編むマフラーは本当に2 でした。素敵なイタリアの毛糸で 葉に誘われ体験したのがきっかけ たのだけど、 ないと思い続けてきた習い事だっ っている。 私 「2時間で編めます」という言 年 前 あるイベントに出か 絶対私には

> われる。 心が折れそうな時もこの言葉に救生の魔法の言葉は本当にすごい。 時間はかかっても出来上がる。先 と言って私たちのやる気を応援し も 私もこの魔法の言葉で家族や友人 てくれる。 笑顔を添えて、「きっと、大丈夫」っ 「大丈夫、大丈夫、出来る出来る」 先生に会うといつも思う。 絶対無理と思える作品で 不思議なことに本当に



どんな時も先生は平常心でニコニ ル・・・みんな違う。難易度も様々。

い点はみんなそれぞれ好きな物を

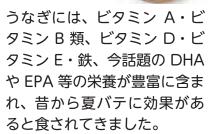
゚セーター、バッグ、ストー

古に通う私ですが、この教室の良思わせる素敵な人。今、夜のお稽

もう少しこの方と一緒にいたいと した。穏やかでニコニコしていて 様惹かれたのがその先生の人柄で 時間で出来上がった。その作品同

ご提供させていただきました。





- 鰻蒲焼き ・大根炒め煮 蓮根サラダ

11月は50周年記念誌発行 のため、おおぞら通信は休刊と させていただきます。

また、2024年より年4回の 発行(1、4、7、10月)に変 更となります。

今後も様々な情報を発信して いきますので、ご愛読いただけ ますと幸いです。

苦情解決委員会

2023年4月~6月 期間中公表を希望される苦情は ありませんでした。

(期間中受付した苦情は1件でした)



	5月	6月
ショートステイ利用者数 (延べ利用日数)	46人 (270日)	48人 (250日)
放課後デイ利用者数 (延べ利用日数)	17人 (70日)	19人 (72日)
実習者数 (グループ数)	1人 (1グループ)	0人 (0グループ)